

2023 年度 第 4 回 定例会

【議事録】

開催日：2024 年 2 月 3 日（土）13:30～17:00

場 所：会場参加（博多石川ビル 6 階 6G 会議室）および WEB（Microsoft Teams）

参加者：会場 10 名 WEB 12 名（欠席 1 名）

（1）新倫理綱領についての意見交換

●新倫理綱領の「5. 真実性の確保」について意見交換：意見発表 勇委員（概要）

人には環境説とか生得説があるが、パーソナリティは環境に非常に影響され、また価値観も影響される。生得説は心理学用語では「流動性知能」、一方、環境説は「結晶性知能」と呼ばれている。「流動性の能力」は年齢とともにだんだん右肩下がりに落ちてくる。「結晶性知能」は、技能や言語、知識及びその人が属する文化などの情報が問題解決能力や学習能力へ活性化されるのではないかと。年をとるごとに高くなっている。生涯、勉強により活性化されるのはいい。

集団思考は「同調圧力」で症状が出て、最後は欠陥的意思決定につながり大失敗となるとされる。

人間はどうしても仲間外れはいやとか、弱いものである。内部告発などで成長していくのが大事である。

地盤工学会の資料から「倫理観は社会生活を送る上ですべての人間が当然備えているべきであるが、倫理に関する理解と行動には個人差がある」とされる。自分はこの個人差は、生きていく中で自分の価値観が意思力につながると思う。

善く生きる、いわゆる「Wellbeing」を考えたときに「技術者がすでにもっている倫理判断能力・行動力」が意思力であり、伸ばすことが必要である。

倫理的問題に直面した技術者が自信をもって意思決定を行い、さらに技術者としての誇りをもって、その意思決定に従った行動・行為を支援するのが技術者倫理であると考えます。

池田昌子氏の言う「人間はあらゆる思い込みによって生きている。その思い込み、つまり価値観は人によって違う。その相対的な価値観を絶対だと思い込むことによって人は生きる指針とするが、まさにそのことによって人は不自由になる。外側の価値観に自分の判断をゆだねてしまうからだ」は、自分にとって印象に残った。

●意見交換（抜粋）

■そもそも真実性とは何か。科学者や技術者は、白黒の間のグレーゾーンを大事にする。このグレーゾーンで考えた場合、「相対的な価値観が絶対だと思い込むこと」を絶対視するのではなく、グレーゾーンを改善していくのが科学者技術者である。真実に近づくためによりよい仮説を展開していくが、真実性は目標であってゴールではない。技術士には、その方向性があっていい。

■今回の改訂は全体的に「〇〇しない」という表現が「〇〇する」という、いわゆる予防倫理から志向倫理に向かっているが、追加された「指針（2）」の文言が、ここだけ「〇〇しない」という結びであることに意味があるのではないかと。最近の不祥事から、あえて否定語であり一番肝になっている。ここだけは、真摯に受け止めてほしいととらえればいいのか。

■「Wellbeing」は自尊心と関係するものか。技術者としての誇りは、間違った自尊心とごっちゃにしないようにしなくてはならない。誇りを外すと真実性が確保できないことになるから、技術者として誇りが大切である。

(2) 公開 CPD の振り返りと 2024 年度公開型 CPD について

- 2023.11.25 公開 CPD の振り返り投稿から今後の課題や引継ぎ事項を抽出して整理（永岩委員長）

■ 事前準備について

早い段階での動き出しと工程の進捗管理、タスクの細分化と役割分担の明確化、さらにタスクに応じて事前の打ち合わせを十分に行うことが重要。

また、CPD 行事準備の流れとか必要な書類の仕様内容等の周知と共有が必要。

通常からの PC の接続や操作の習得については、企画配信タスクチームを中心に進める。

■ 開催当日について

流れを想定した事前の準備や現場での臨機応変の対応が重要。

当日の詳細な機材の準備や役割分担など事前の確認が必要。

会場使用可能時間を考慮した開始時間の調整など準備時間を考える。

多様性を考慮した人選、会場や W E B からの意見をもらう時間を確保などの手法、委員会内での体制づくりは企画配信タスクチームを中心に進める。

■ 事後処理について

各自メモの作成及び議事録担当者への提供、スムーズな録画録音データの回収が重要。

統括行事予定システムの改善を踏まえつつ、W E B 参加費の徴収などの処理も検討していく必要がある。

● 2024 年度の実施について

第 3 回定例会(11 月)のタイミングで、九州本部単独で公開 C P D を実施する方向で準備する。

技術者倫理と技術者倫理に絡む社会倫理で 2 枠程度（90 分×2）の講演会の形で準備することとし、企画配信タスクチームを中心に 2024 年度の第 1 回定例会(6 月)には大まかな方向性やスケジュールなどを示せるように準備を進める。

(3) タスクチームからの報告

● 活動管理タスクチーム（勇チームリーダー）

2023 年度の委員会の活動報告について、整理中。委員長との調整を進める。

● 教育啓発タスクチーム（佐藤チームリーダー）

新メンバーでスタートしたがメンバー全体での勉強会が開催できなかった。このため 24 年度からは年間 3 回の勉強会を開催したい。2 月～4 月の間に WEB 会議を持ち、勉強会の日程、チームの行動目標を決定したい。

教育啓発タスクチームにおいて「九州本部の協賛団体への技術者倫理教育の活動周知」を検討していただきたい。今度の合同役員会で意見を聞いた上で、教育啓発タスクチームで賛助団体への倫理教育や倫理講義なども加えていただけたらありがたい。（委員長）

● 企画配信タスクチーム（松井チームリーダー）

今後の定例会や倫理イベント等で行う企画案についてタスクチーム内で募集した意見の紹介。

- 1) チャット G P T への質問と回答を用いた議論
- 2) ビブリオバトル～みんなに紹介したい倫理に関する本のアピール合戦
- 3) よい事例紹介と議論
- 4) 技術者倫理に関する法令情報と改正情報の共有
- 5) 技術者倫理「ヒヤリ・ハツとエピソード」募集
- 6) 技術者倫理に関する現地視察
- 7) 不正発生のプロセス（枠組み）から見た不正事例の分析

- 8) 社会常識やコンプライアンスの変遷と倫理的解釈
- 9) 慣れによる問題発生事例における要因分析とその対策
- 10) 不正発生時の内部調査と外部調査について

○他の委員からも案を聞いて、次回の定例会で選定案を出すことを考えている。

- 連携・交流タスクチーム（西井チームリーダー）

中国本部との連携について、中国本部の大丸倫理委員長に投げかけて、何をするのか九州本部の協力について意見を聞き6月の定例会で体制を検討したい。

- 沖縄県支部倫理支援担当（井内チームリーダー）

沖縄県技術士会の大村さん（九州本部幹事）に、九州本部倫理委員会の概要と講師派遣ができることを話した。沖縄技術士会から問合せなどがあれば倫理委員会内で共有する。

（4）会務報告

- 総括本部倫理委員会報告（永岩委員長）

統括本部の倫理委員会、情報小委員会、倫理委員会情報小委員会と広報委員会の合同会議について概要を報告。

情報小委員会の役割の一つに「月刊技術士」の技術者倫理シリーズの企画と執筆者紹介があるが、私から「多様な社会倫理」を題材にしてシリーズ連載の企画を提案した。九州本部の倫理委員会からも執筆者を紹介できるよう、協力を願いたい。

- 2024 全国大会について（永岩委員長）

今年の札幌で開催される全国大会は、10月4日に倫理情報連絡会、10月5日に第1分科会(技術者倫理)がある。来年の全国大会は九州本部で受け持つことから、準備の参考とするため、今年の全国大会に倫理委員の参加を促したい。

次年のPRを含めた九州本部での検討を踏まえ、交通費支給も確保していきたい。

- 技術士だより夏季号140号原稿執筆者の件（永岩委員長）

140号については5月に原稿締め切りの予定だが、第4回定例会（本会）の内容を活動報告として報告することを考え、議事録担当にお願いしたい。また、今後も議事録を書いた方が原稿に落とし込むことがスムーズであることから、技術士だよりの倫理委員会活動報告の記事の執筆は、定例会の議事録担当にお願いしたい。ただし、内容については、執筆者の倫理観や思い入れとすることは妨げない。

- 2024 年度定例会の検討・決定について（永岩委員長）

2024年度の定例会の日程を以下とする。

第1回：6月15日（土曜日）

第2回：9月21日（土曜日）

第3回：11月16日（土曜日）

第4回：2025年2月1日（土曜日）

- 第1回定例会の役割分担について（永岩委員長）

村岡委員の入院を考慮し、6月15日に予定する新技術士倫理綱領についての意見発表は、「8法令等の遵守」について河本委員にお願いする。

9月の第2回定例会で、「7 秘密情報の保護」について久原委員が意見発表することを予定し、村岡委員が準備している「6 公正かつ誠実な履行」についての意見発表は、2025年2月の第4回定例会以降に予定する。

また、定例会の議事録は持ち回りで、宮園委員にお願いする。

●事務局通知：九州本部HPの自己監査チェックについて（永岩委員長）

九州本部のHPを含めて日本技術士会のHPへの記事等はかなりチェックをした上で載せる必要がある。

九州本部では広報委員会がメインとなり取りまとめするが、各委員会・部会でHPに乗せる資料は、それぞれであらかじめ自己監査チェックするように定められている。（事務局指示「自己監査チェックシート」の提出）

倫理委員会のHPは、アーカイブの形で過去の議事録や報告書などを掲載して蓄積している状況であり、規定に抵触していないかどうかをチェックしなければならない。

意見を基に、一旦、議事録や報告書を全て削除し、直近分からチェックして、徐々にさかのぼってチェックができたものから載せていくこととする。

今後については、年1回の自己監査チェックと記載を活動管理タスクチームにお願いしたい。

●事務局通知：対外行為について（永岩委員長）

日本技術士会の地方組織が対外行為に関わる場合に、必要な手続きをしなければならないが、倫理委員会として該当する（報告を要する）ものはないことを確認した。

●業界紙への寄稿依頼（堀田委員）

日本プラントメンテナンス協会が発行している「プラントエンジニア」月刊誌で、5月号で「今、あらためて技術者の倫理について考える」というテーマが決定しており、この執筆依頼がきている。いい機会でもあるので、倫理委員会の方と共著にさせていただきたいと思っている。

原稿締め切りが3月20日となっており、2月10日までに申し出ていただければありがたい。何人かお願いできればと思う。



会議風景（Teams 画面）

以上